



CSW 活動報告書

令和2年度 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

C こまったときの **S** そうだんは **W** わたしたちへ



所沢市社会福祉協議会
地域福祉推進課

目 次

■はじめに	2
■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは	3
■CSW 活動報告	
I 相談集計表	5
II 地区別支援回数（個別支援・地域支援）	8
III 地域の実態把握及び支援	12
■まとめ	
I 相談件数等から見る考察	15
II CSW 活動のまとめ	16
■令和 2 年度 CSW 地域アセスメントシート	20

はじめに

この報告書は、所沢市社会福祉協議会が平成 27 年度のモデル配置を経て、平成 28 年度から市内全行政区に配置し活動を開始したコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）の取り組みや相談対応から見てきた現状と課題について「見える化」を試みるものとして発行いたしました。

CSWの配置から6年が経過し、CSWは複合的な課題や狭間のニーズ等、自らSOSを発することなく地域から孤立し、生きづらさや生活に困難を抱えている方々を必要な支援につなげていけるよう、取り組んでまいりました。

そして令和2年度は「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大による複数回の緊急事態措置の中で、様々な活動の自粛を余儀なくされました。これまで行われてきた地域福祉活動の中で積み上げてきた「つながり」が断たれてしまうことにより、新たな孤立や孤独を生み出してしまい兼ねない状況を目の当たりにし、CSWとして「今、何ができるのか？」を問い続けてきた一年となりました。

CSWの活動は「寄り添う」、「伴走する」といった、困りごとを抱える方の近くで支援をすることが基本的なスタンスであり、どうしたら「集まらなくても、つながり続けることができるか」という、これまでとは異なる発想を求められました。こうしたことから、高齢者が外に出なくなったことによる運動機能の低下や、近所同士の見守りもできにくくなった、こども食堂に来ていたこども達の生活の様子が見えなくなった等、様々な課題が生まれ、誰もが経験したことのない事態の中で、CSWも模索し続けてまいりました。その活動の一つとして、こども食堂等を通じて必要な世帯へ食品をお届けする「笑顔でごはんフードパントリー事業」の取り組みを始め、コロナ禍でも持続可能な活動形態として定着しました。また、広く情報を発信していくため動画配信サイトの活用も始めました。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症は収束していませんが、様々な地域課題の解決に向け、地域の皆様とともに、取り組んでまいりたいと思います。

CSW 報告書発行に寄せて

所沢市社会福祉協議会 地域福祉活動推進会議 委員長
東京通信大学人間福祉学部人間福祉学科 教授
田中 英樹



ここに、所沢市社会福祉協議会CSWの令和2年の1年間の活動の足跡を自らの手で記した報告書が発刊されたことに心から祝福のメッセージを送ります。

ここ、数年CSWの皆さんと関わらせている中で感じたことや考えたことを述べて、住民の皆さんや関係者の方々にCSWの活躍を応援する立場から3つの事柄をぜひ紹介したいと思います。

第1に、この1年間は新型コロナウイルス禍での困難な活動であったという事実です。今まで誰もが経験したことがない世界的なパンデミック危機の中で、CSWの活動は予期しなかった困難の連続に遭遇しました。

三密を避けることから、訪問活動や子ども食堂などの居場所活動、対面的な接触のほとんどすべてが自粛され、活動を委縮せざるを得なかったことは実績が示している通りです。それでも、フードパントリーの開拓や工夫を凝らした寄り添う支援の成果が語られています。

第2に、私が毎月のスーパービジョンを担当して思うことは、一人ひとりのCSWが確実に力量を上げ、成長していることです。しっかりと自分なりの考えや関わりを自己分析し、発言する瞳に確かな自信を見ることができます。

第3に、CSWの活動が丁寧に個別支援を日々担いながら、社会参加支援や地域づくりを総合的に志向し、関係する人々や機関としっかりと連携を強めていることです。50名を超える社会福祉士有資格者や10名の精神保健福祉士有資格者の擁する県内のトップランナーとして皆さんの活動をこれからも応援します！

■ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは

地域を基盤として活動し、地域の中で支援につながらず困っている方を発見し、支援します。従来の制度や法の枠組みのなかでは十分に対応できない、いわゆる「制度の狭間」で困りごとを抱える人に寄り添いながらニーズの共通性に着目し、地域の生活課題の解決に向けて、地域住民と協働して新しい仕組みづくりにとりくむ専門職です。

◎市内11行政地区ごとに担当CSWを配置しています。

CSW の主な活動

キャッチフレーズ

ささえる つながる みつけだす

● ささえる

ひきこもり、セルフネグレクト（福祉サービスを拒んだり、本人が支援の必要性を感じていない等）やいわゆる「ごみ屋敷」の問題などの適切なつなぎ先がない方、複数の生活課題を抱えている等、アウトリーチ※¹を基本とした相談支援を行っています。制度の狭間で生活のしづらさや、生きづらさを抱える課題を、自治会・民生委員・児童委員・ボランティア等の地域住民と協力しながら、課題の解決に向けて一緒に取り組んでいます。また、所沢市こどもと福祉の未来館・1階に設置する福祉の相談窓口担当職員その他、必要に応じて福祉・保健・教育等関係機関とも連携して支援しています。

※1 アウトリーチ…積極的に対象者の居る場所に向いて働きかけること

【生活上の様々な困りごと・課題の例】

- 長い間自宅に引きこもっていて、一步を踏み出せない
- たくさんの問題を抱え、どこに相談していいのかわからない
- 定年退職後、何も楽しみ・生きがい（趣味等）がない離職や失職、減収による生活困窮
- 加齢による体力低下や認知症のため身の回りのこと（買物・掃除・ゴミ出し等）ができなくなる
- 介護・育児（ダブルケア）によるストレス、虐待 等

● つながる

地域の中で活動することを通して、地域住民の声をもとに、自らSOSを発信できない方や、社会的孤立により支援につながらない方等を、問題が重篤化する前に発見し、必要なサービスへつなぎます。

また、住みなれた地域で安心して暮らせるよう、住民活動による支援とつながるようサポートしています。

このように、CSWは人と人をつないだり、人と情報をつないだり、様々な場面で「つなぐ」役割を担っています。



【CSWがつなぐ住民活動の例】

- ボランティア活動・サークル活動
- 高齢者サロン・子育てサロン・多世代型サロン
- こども食堂・学習支援、フードパントリー 等

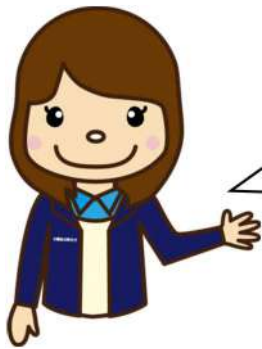
● みつけだす

地域で開催される会議体や相談会に参加するとともに、地域の中で心配な方や気になる方と CSW がつながれるように、相談会の開催や日頃からの関係づくり、周知活動を行っています。

また、様々な会議の場や情報交換等を通じて、地域課題の把握にも努めています。

【会議体や相談会の例】

- 地域づくり協議会・地区社協との連携・協働
- 地域ケア会議への参加
- 住民懇談会など福祉情報交換会の開催
- 各地区の身近な相談窓口の設置 等



住民への周知や
個別支援でのアプローチに
チラシを活用しています➡



CSW活動報告

CSWは、誰もが安心して地域で暮らせるように民生委員・児童委員やボランティア等の各種関係機関・団体の皆様、自治会・町内会、地域づくり協議会等の皆様と連携し、居場所づくりや支え合いのしくみづくりを行っています。令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、相談会の中止や日ごろCSWが出向いている活動先等においても、活動の中止や休止が続きましたが、全体的な相談件数としては、前年度とほぼ同様の件数が寄せられました。

I 相談集計表

この表は、令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）に、CSWが対応した相談件数、相談対象者の種別及び年齢層、相談方法、相談内容を集計したものです。

【総合的福祉相談（個別相談支援、被災者支援、その他）】 【相談対応件数】

	令和2年度	令和元年度
個別相談支援	2,911	2,978
被災者支援	4	12
その他	288	242
合計（延べ件数）	3,203	3,232

	令和2年度	令和元年度
新規相談	506	628
継続相談	2,697	2,604
合計	3,203	3,232

【対象者種別】

	延べ件数	構成比
高齢者	1,114	34.8%
障害者	777	24.3%
子ども	299	9.3%
生活保護	140	4.4%
施策利用なし	313	9.8%
団体等	29	0.9%
その他	531	16.6%
合計	3,203	100.0%

【相談方法】

	令和2年度		令和元年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
電話相談	1,806	56.4%	1,575	48.7%
訪問	533	16.6%	621	19.2%
来所	316	9.9%	392	12.1%
相談会	96	3.0%	77	2.4%
出先にて	258	8.1%	374	11.6%
その他	194	6.1%	193	6.0%
合計	3,203	100.0%	3,232	100.0%

【相談者】

	令和2年度		令和元年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
本人	1,739	54.3%	1,971	61.0%
民生委員	146	4.6%	140	4.3%
家族	248	7.7%	265	8.2%
関係機関	857	26.8%	683	21.1%
近隣住人	99	3.1%	84	2.6%
その他	114	3.6%	89	2.8%
合計	3,203	100.0%	3,232	100.0%

【対象者】

	令和2年度		令和元年度	
	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数
0～9歳	106	46	128	22
10～19歳	228	17	139	16
20～29歳	61	17	48	19
30～39歳	221	27	181	17
40～49歳	452	22	243	28
50～59歳	465	50	376	42
60～64歳	110	11	78	15
65～70歳	159	18	197	21
70～74歳	99	19	290	33
75歳以上	814	80	543	59
年齢不明	488	50	1,009	280
合計	3,203	357	3,232	552

相談件数に大きな変化はありませんでしたが、コロナ禍ということで電話相談が増えました。また、後期高齢者の相談が多い一方で、30～50代の現役世代の相談も多く寄せられました。



【 相談内容 】

	相談内容	令和2年度		令和元年度	
		延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
1	サービス利用	154	4.8%	150	4.6%
2	病気	145	4.5%	104	3.2%
3	けが	28	0.9%	27	0.8%
4	障がい（手帳有）	185	5.8%	176	5.4%
5	障がい（疑い）	91	2.8%	108	3.3%
6	メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）	229	7.1%	255	7.9%
7	自死企図	2	0.1%	11	0.3%
8	住まい不安定	27	0.8%	76	2.4%
9	ホームレス	2	0.1%	27	0.8%
10	経済的困窮	281	8.8%	317	9.8%
11	（多重・過重）債務	8	0.2%	15	0.5%
12	家計管理の課題	48	1.5%	81	2.5%
13	就職活動困難	54	1.7%	28	0.9%
14	就職定着困難	24	0.7%	30	0.9%
15	生活習慣の乱れ	276	8.6%	234	7.2%
16	社会的孤立	367	11.5%	234	7.2%
17	家族関係・家族の問題	286	8.9%	234	7.2%
18	不登校	70	2.2%	60	1.9%
19	ふくし学習（初回相談のみ）	20	0.6%	19	0.6%
20	中卒・高校中退	1	0.0%	3	0.1%
21	ひとり親	26	0.8%	58	1.8%
22	DV・虐待	23	0.7%	44	1.4%
23	外国籍	42	1.3%	20	0.6%
24	刑余者	1	0.0%	0	0.0%
25	コミュニケーションが苦手	16	0.5%	25	0.8%
26	能力の課題（識字・言語・理解等）	24	0.7%	36	1.1%
27	被災	4	0.1%	12	0.4%
28	介護	107	3.3%	54	1.7%
29	育児	42	1.3%	88	2.7%
30	性別	0	0.0%	1	0.0%
31	地域との関係	75	2.3%	157	4.9%
32	その他	288	9.0%	242	7.5%
33	ボランティアしたい	176	5.5%	207	6.4%
34	ボランティアしてほしい	81	2.5%	99	3.1%
	合計	3,203	100.0%	3,232	100.0%

【 対象者年代別相談者 】

対象者年代	相談内容（対象者との関係）						合計
	本人	民生委員	家族	関係機関	近隣住人	その他	
0～9歳	67	18	1	17	0	3	106
10～19歳	168	0	28	29	0	3	228
20～29歳	43	0	1	12	1	4	61
30～39歳	174	5	8	20	1	13	221
40～49歳	223	3	6	182	0	38	452
50～59歳	288	32	40	96	2	7	465
60～64歳	69	0	1	38	0	2	110
65～70歳	59	1	7	70	15	7	159
70～74歳	60	11	0	17	7	4	99
75歳以上	324	30	120	289	37	14	814
年齢不明	160	23	23	63	32	187	488
合計	1,635	123	235	833	95	282	3,203

相談集計表

【対象者年代別主な相談内容】

対象年代	相談内容																																		総計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
0~	3	0	1	2	4	10	0	0	1	8	0	0	0	0	3	2	5	0	2	0	2	0	2	1	0	2	0	0	1	5	0	16	19	14	3	106
10~	3	0	0	29	2	3	0	0	1	0	0	1	0	44	63	14	40	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	16	4	3	228
20~	0	0	0	1	0	1	0	0	6	0	3	2	0	0	3	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	33	1	61
30~	2	5	0	29	2	46	1	1	0	30	1	0	9	12	2	7	10	0	1	0	6	0	18	1	5	3	0	0	10	0	2	5	12	1	221	
40~	6	3	0	45	5	30	0	3	0	73	0	18	8	1	50	49	69	17	0	0	11	0	17	0	3	3	0	6	6	0	0	12	15	2	452	
50~	10	26	6	28	19	49	0	6	0	46	0	5	19	3	55	48	37	7	0	0	1	0	1	0	3	2	0	7	5	0	20	42	15	5	465	
60~	0	15	0	7	0	6	0	0	0	15	4	3	5	1	18	13	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	1	7	3	0	110	
65~	11	16	3	7	6	3	0	0	1	12	0	3	1	0	19	22	4	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	18	10	19	159		
70~	6	6	1	0	3	6	1	5	0	14	0	1	0	0	9	12	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	0	0	11	3	5	5	99	
75~	96	56	15	2	34	28	0	10	0	51	2	5	7	0	60	117	90	0	0	1	0	14	1	0	1	13	0	74	5	0	9	87	17	19	814	
不明	14	17	0	31	10	32	0	0	0	20	1	6	2	7	9	16	36	4	5	0	4	4	1	0	0	1	1	8	6	0	7	211	27	8	488	
合計	151	144	26	181	85	214	2	25	2	276	8	44	54	24	269	352	280	68	8	1	24	22	41	1	16	24	4	106	41	0	67	422	155	66	3,203	
構成比	4.7%	4.5%	0.8%	5.7%	2.7%	6.7%	0.1%	0.8%	0.1%	8.6%	0.2%	1.4%	1.7%	0.7%	8.4%	11.0%	8.7%	2.1%	0.2%	0.1%	0.7%	0.7%	1.3%	0.1%	0.5%	0.7%	0.1%	3.3%	1.3%	0.0%	2.1%	13.2%	4.8%	2.1%	100.0%	

1 サービス利用

2 病気

3 けが

4 障がい（手帳有）

5 障がい（疑い）

6 メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）

7 自死企図

8 住まい不安定

9 ホームレス

10 経済的困窮

11 （多重・過重）債務

12 家計管理の課題

13 就職活動困難

14 就職定着困難

15 生活習慣の乱れ

16 社会的孤立

17 家族関係・家族の問題

18 不登校

19 ふくし学習（初回相談のみ）

20 中卒・高校中退

21 ひとり親

22 DV・虐待

23 外国籍

24 刑余者

25 コミュニケーションが苦手

26 能力の課題

（識字・言語・理解等）

27 被災

28 介護

29 育児

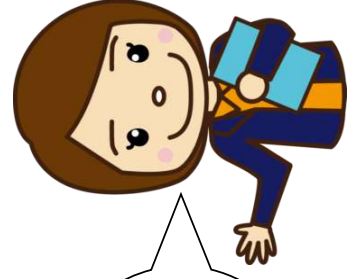
30 性別

31 地域との関係

32 その他

33 ボランティアしたい

34 ボランティアしてほしい



令和元年度に引き続き、社会的孤立をしている方からのご相談が最も多いですが、令和2年度はその割合が増加しました。

II 地区別支援回数（個別支援・地域支援）

CSWによる相談対応や支援の内容を地区ごとに集計したものです。また、市内全体にかかわる支援や市外の支援についても集計しています。

全体で見ると、「今後の対応についての相談・打ち合わせ」が多くなっており、相談者の多くは複数の課題を抱えており、関係機関や専門職との連携や関りも増えています。

順位別相談内容（R02.04～R03.03）

【所沢地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	40	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	18	安否確認
2	18	ボランティア活動をしたい
4	9	今後の不安
5	5	寄付
5	5	ボランティア要請
5	5	どこに相談したらいいか
8	4	家族関係
8	4	こども食堂
—	8	その他

【所沢地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	39	社協が運営する拠点活動
2	15	地域福祉サポーターの取り組み
3	14	子ども支援（こども食堂・学習支援）
4	11	地域の居場所（サロン・体操等）
4	11	ふくし掲示板管理
6	9	ふくし学習（学校関係）
7	8	第2層SCとの連携*
8	7	地域からの問い合わせ・対応
9	6	担い手・ボランティア活動の相談支援
10	5	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議

【松井地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	125	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	62	関係者との情報共有
3	29	安否確認
4	15	今後の不安
5	10	経済困難
6	10	ボランティア活動をしたい
7	7	家族関係
7	7	ボランティア要請
9	6	実施方法についての相談
10	4	介護
10	4	引きこもり

【松井地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	99	ふくし掲示板管理
2	66	地域の居場所（サロン・体操等）
3	25	地域からの問い合わせ・対応
4	36	地域福祉サポーターの取り組み
5	92	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	8	子ども支援（こども食堂・学習支援）
7	6	第2層SCとの連携
8	5	相談会の開催
8	5	社会福祉法人の地域公益活動支援
10	4	地域行事への参加・協力

【柳瀬地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	9	今後の対応についての相談・打ち合わせ
1	9	ボランティア要請
3	6	家族関係
3	6	引きこもり
5	4	今後の不安
5	4	経済困難
7	3	寄付
7	3	どこに相談したらいいか
7	3	カンファレンス
10	2	病気

【柳瀬地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	36	子ども支援（こども食堂・学習支援）
2	20	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
2	20	地域からの問い合わせ・対応
4	10	地域の居場所（サロン・体操等）
5	6	相談会の開催
6	4	担い手・ボランティア活動の相談支援
7	3	第2層SCとの連携
7	3	社会福祉法人の地域公益活動支援
9	2	地域福祉サポーターの取り組み
9	2	ふくし掲示板管理

※SC…生活支援コーディネーター（高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進しえいくことを目的とし、地域において、生活支援及び介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす者）

【富岡地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	12	関係者との情報共有
1	12	ボランティア要請
3	9	今後の対応についての相談・打ち合わせ
4	7	どこに相談したらいいか
6	5	ボランティア活動をしたい
7	4	経済困難
7	4	安否確認
9	3	高齢
9	3	ごみ屋敷
-	7	その他

【富岡地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	28	地域の居場所（サロン・体操等）
2	18	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
3	11	相談会の開催
4	10	ふくし掲示板管理
5	3	担い手・ボランティア活動の相談支援
5	3	掲示板
6	1	地域ケア会議（第2層協議体）
6	1	地域からの問い合わせ・対応
-	34	その他
-	6	その他の会議

【新所沢地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	24	ボランティア活動をしたい
2	21	関係者との情報共有
3	15	経済困難
3	15	どこに相談したらいいか
5	10	今後の対応についての相談・打ち合わせ
6	4	高齢
6	4	家族関係
6	4	ボランティア要請
6	4	ふくし学習
-	10	その他

【新所沢地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	9	地域の居場所（サロン・体操等）
2	7	第2層SCとの連携
3	6	会議
4	5	ふくし掲示板管理
5	4	ふくし学習（学校関係）
6	3	地域福祉サポーターの取り組み
6	3	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
6	3	地域からの問い合わせ・対応
-	10	その他
-	4	その他の会議

【新所沢東地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	14	関係者との情報共有
2	11	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	11	ボランティア活動をしたい
4	6	知的障害
5	5	経済困難
6	3	寄付
7	2	近隣トラブル
7	2	どこに相談したらいいか
7	2	こども食堂
-	7	その他

【新所沢東地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	3	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
1	3	掲示板
2	2	第2層SCとの連携
4	1	地域行事への参加・協力
4	1	地域の居場所（サロン・体操等）
4	1	地域ケア会議（第2層協議体）
4	1	子ども支援（こども食堂・学習支援）
4	1	会議
-	6	その他
-	4	その他の会議

【三ヶ島地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	16	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	7	近隣トラブル
2	7	ボランティア活動をしたい
4	4	騒音問題
5	3	生活支援
6	2	精神障害
6	2	ごみ屋敷
6	2	近くで通える場を知りたい
6	2	認知
-	5	その他

【三ヶ島地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	14	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
2	9	第2層SCとの連携
3	7	地域からの問い合わせ・対応
4	8	ふくし掲示板管理
5	6	地域の居場所（サロン・体操等）
6	2	担い手・ボランティア活動の相談支援
6	2	地域ケア会議（第2層協議体）
6	2	相談会の開催
9	1	人材育成・講座・学習等（学校関係以外）
9	1	地域福祉サポーターの取り組み
9	1	子ども支援（こども食堂・学習支援）
9	1	企業・商店等の地域公益活動支援

【小手指地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	47	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	23	近隣トラブル
3	15	どこに相談したらいいか
4	14	経済困難
5	11	実施方法についての相談
6	17	ボランティア活動をしたい
7	6	こども食堂
8	5	近くで通える場を知りたい
9	3	引きこもり
-	5	その他

【小手指地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	39	地域の居場所（サロン・体操等）
2	23	子ども支援（こども食堂・学習支援）
3	14	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
4	13	第2層SCとの連携
5	11	ふくし学習（学校関係）
6	5	ふくし掲示板管理
7	3	地域からの問い合わせ・対応
8	3	相談会の開催
9	2	地域ケア会議（第2層協議体）
-	35	その他

【山口地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	24	今後の不安
1	24	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	11	ボランティア活動をしたい
3	11	どこに相談したらいいか
5	9	家族関係
6	8	学習課題
7	7	こども食堂
8	5	関係者との情報共有
8	5	安否確認
-	5	その他

【山口地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	12	子ども支援（こども食堂・学習支援）
2	9	相談会の開催
3	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	3	地域福祉サポーターの取り組み
5	3	地域の居場所（サロン・体操等）
5	3	その他の会議
8	2	地域からの問い合わせ・対応
8	2	担い手・ボランティア活動の相談支援
8	2	掲示板
-	4	その他

【吾妻地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	7	実施方法についての相談
1	7	どこに相談したらいいか
3	5	経済困難
3	5	関係者との情報共有
3	5	安否確認
3	5	ゴミ屋敷
7	4	今後の対応についての相談・打ち合わせ
7	4	ボランティア要請
9	3	ボランティア活動をしたい
-	4	その他

【吾妻地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	17	子ども支援（こども食堂・学習支援）
2	15	ふくし学習（学校関係）
3	13	地域の居場所（サロン・体操等）
4	8	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	6	ふくし掲示板管理
6	5	担い手・ボランティア活動の相談支援
7	3	地域からの問い合わせ・対応
8	2	地域福祉サポーターの取り組み
-	3	その他の会議
-	22	その他

【並木地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	69	関係者との情報共有
2	53	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	33	どこに相談したらいいか
4	29	引きこもり
5	22	ボランティア活動をしたい
6	12	ボランティア要請
7	11	不安
8	10	精神障害
8	10	経済困難
-	74	その他

【並木地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	103	地域の居場所（サロン・体操等）
2	52	相談会の開催
3	42	子ども支援（こども食堂・学習支援）
4	22	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	11	ふくし掲示板管理
6	9	掲示板
7	6	地域福祉サポーターの取り組み
8	3	担い手・ボランティア活動の相談支援
9	3	ふくし学習（学校関係）
-	75	その他

【市内広域個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	7	ボランティア活動をしたい
2	2	寄付
3	1	実施方法についての相談
3	1	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	1	関係者との情報共有
3	1	ボランティア要請
3	1	こども食堂
-	6	その他

【市内広域地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	15	子ども支援（こども食堂・学習支援）
2	12	担い手・ボランティア活動の相談支援
3	5	企業・商店等の地域公益活動支援
4	9	地域からの問い合わせ・対応
-	35	その他の会議
-	19	その他

【市外・その他地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	9	ボランティア活動をしたい
2	4	どこに相談したらいいか
3	3	関係者との情報共有
3	3	ボランティア要請
5	2	精神障害
5	2	介護
7	1	今後の不安
7	1	今後の対応についての相談・打ち合わせ
7	1	言語が通じない
-	6	その他

【市外・その他地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	3	子ども支援（こども食堂・学習支援）
2	1	担い手・ボランティア活動の相談支援
-	8	その他

こども支援（こども食堂・学習支援）のご相談が各地区で増加しました。フードパントリーの立ち上げなど、コロナ禍での新たな活動が増えました。



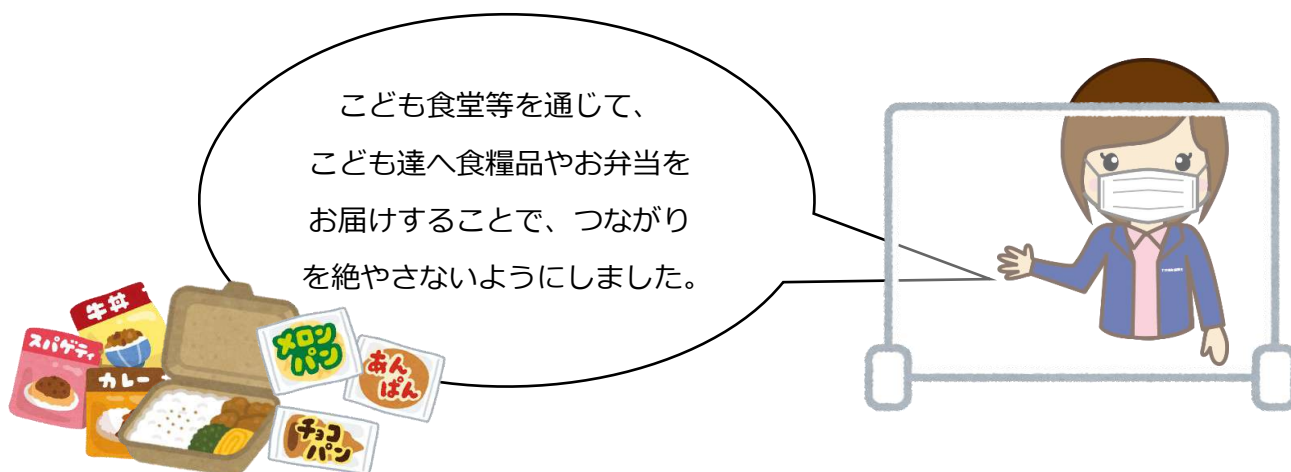
Ⅲ 地域の実態把握及び支援

CSWは個別の相談対応や、担当地区において課題や社会資源等の実態把握及び様々な取り組みに対する支援を行っています。個別の相談から見えてくる地域のニーズを地域住民や関係団体等と解決に向けた話し合いや具体的な取り組みを通じて、地域のつながりづくりや支え合いの仕組みづくりを進め、地域の福祉力向上を図っています。この表は、地域におけるその具体的な支援内容を集計したものです。

令和2年度の特徴としては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域の様々な居場所やこども食堂等の活動が休止となりました。活動再開に向け、新しい生活様式を取り入れた活動支援やこども食堂等を通じて行うフードパントリー※2等、これまでとは異なる内容の支援が多くありました。

※2 フードパントリー…ひとり親や生活困窮者など、生活に困っている方々に食料品を無料で配布する活動

内容	令和2年度	令和元年度
子ども支援（こども食堂・学習支援）	56	27
担い手・ボランティア活動の相談支援	14	7
相談会の開催	30	45
社会福祉法人の地域公益活動支援	1	—
ふくし掲示板管理	11	—
ふくし学習（学校関係）	20	36
地域の居場所（サロン・体操等）	59	41
地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議	32	23
地域福祉サポーターの取り組み	4	—
企業・商店等の地域公益活動支援	1	5
地域からの問い合わせ・対応	9	—
掲示板	3	—
その他の会議	17	31
その他	58	14



【各種取り組みの様子】

CSW会議

令和2年4月10日



ぽかぽか並木（フードパントリー）

令和2年5月28日



ジュニアボランティアグループ・はっぴー

令和2年6月20日



地域福祉サポーターフォーアップ講座（YouTubeライブ）

令和2年7月4日



増田さん家（フードパントリー）

令和2年7月9日



地域福祉サポーター世話役会（Zoom）

令和2年7月13日



認知症サポーター養成講座（専門学校にて）
令和2年9月3日



ふくし学習（若狭小）
令和2年10月9日



みんなのおうち（フードパントリー）
令和2年10月29日



地域福祉活動推進会議
令和2年11月20日



山口地区まちづくり協議会（地域福祉部会研修会）
令和2年11月30日



地域福祉サポーター養成講座
令和2年12月5日・6日



■まとめ

I 相談件数等から見る考察

令和2年度は個別ケースの相談件数は、延べ件数では令和元年度と大きな差異はありませんでしたが、実人数が減少しています。これは同じ相談者に対しての関わりが増加していることがわかります。新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴い、地域住民の抱える課題はより一層複雑・多様化しCSWの関りも長期化しています。

また、「ステイホーム」の呼びかけによる外出自粛や飲食店の営業自粛など経済情勢の悪化による収入減少や失職など、経済的困窮の相談が爆発的に増加しました。

それにより、生活福祉資金の特例貸付の相談が担当者だけでは対応が困難となり、CSWも特例貸付の相談員として活動することもありました。報告書のデータ上では、これらの相談件数は数値として反映されていませんが、そういった相談者の中には、経済面での困りごとだけではなく複数の課題を抱えており、CSWにつながってくるケースも多く見られました。

また、新型コロナウイルスの影響により、地域の様々な活動も休止や縮小を余儀なくされ、これまで積み上げてきた地域のつながりや支え合い活動の継続が困難になってしまいました。

これまで地域で見守られたり、支えられてきた世帯が一気に孤立し、家族だけでは解決できない問題となって表出しているケースや、介護や病気に関する相談も1.5～2倍近くに増加しています。人との関りや外出を控えるようになったことによる心身の衰えや病気の進行なども懸念されます。

このように、新型コロナウイルス感染症のもたらした地域福祉への影響は、問題や生きづらさを抱える方だけではなく、これまで自立して生活してきた方々にとっても、様々な形となって表れてきました。それはCSWにとっても、大きな課題となって立ちふさがり、三密（密集、密接、密閉）を避けながら、どのようにしたら必要な方へ支援や情報を届けることができるのか、模索する一年となりました。

社会的孤立

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまで、地域の中で培われてきた「顔の見える関係づくり」は、「人との接触をできるだけしない」という対極の行動を求められ、会わなくても、集まらなくても、“つながりを絶やさない取り組み”に心を砕きました。

居場所づくりを行うボランティア団体の一部においても、高齢化による活動継続困難な課題と新型コロナウイルス感染拡大による活動休止が重なったことで、「解散」という結論を選択した団体もありました。サロンなどに足を運んでいた方たちは居場所を失い、精神的な落ち込みにつながったり、人とのつながりが断たれ、社会的孤立に陥る人々が増加してい



きました。

このような状況の中、どうしたら地域の中でつながりを絶やさずに暮らせるか、CSWの中で話し合いを重ね、インターネットを活用した情報発信や、無料動画配信サイトを活用することを始めました。このことにより、つながれた人がいる一方で、インターネットを利用できる環境の無い方や操作の苦手な方も多く、つながりを絶やさないための模索が続いています。

身体におよぼす影響

外出を控え、人との接触を縮小するなど、長い自粛生活（ステイホーム）は、身体にも大きな影響を与えてきました。定期的な運動や外出の機会を失い、他者とのコミュニケーションが取りづらくなっていくことは、心身機能の低下につながり、介護に関する相談の増加や、仕事や生活の不安からストレスを感じ、メンタルヘルスにも影響をもたらすケースも少なくありませんでした。

外出自粛の生活や居場所となっていたサロンが休止することで「話し相手がない」、「周囲に相談できる人がいない」という状況を生み出し、社会的孤立や引きこもり状態に陥ってしまう要因に大きく影響しています。

II CSW活動のまとめ

(1) 地域福祉活動の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地域住民による支え合い活動等の取り組みは縮小や減少せざるを得ない状況となり、自治会の回覧板も回すことができなくなったり、地域の活動が全面的にストップする時期もありました。

そのような時期を経て、地域の中では「このまま何もできない状態を続けていてはいけない」「できることから始めよう」といった声が出始め、これまでの活動を継続していくためにはどうしたらよいか、知恵と工夫が求められました。

私たちCSWも、地域での見守りやつながりを絶やさないために「何ができるか」を話し合い、コロナ禍でも創意工夫しながら行われている活動の紹介や、活動者向けの「新しい生活様式」の作成、ダンボールパーティーの作り方の動画を配信するなど、活動再開に役立てられる情報を積極的に発信しました。

それをきっかけに、感染予防を行いながら活動を再開したり、訪問型のサロン活動にカタチを変え、高齢者世帯への声かけを行ったり、住民の地域福祉活動にも少しずつ変化がみられるようになりました。



(2) 個別支援

事例 こどもの居場所づくりの試行

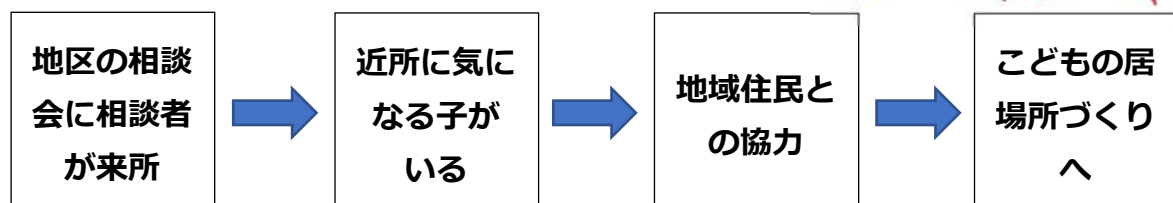
C SWが地区のまちづくり協議会と共催で開催している「なんでも相談会」で「近所に気になるこどもがいる」との相談が寄せられました。そのこどもは、休日や長期休みになると、朝7時ごろから近所の友人宅へ「遊ぼう!」と訪問しており、早朝から遊びに出かける状況や人懐っこい性格から、こどもが犯罪などに巻き込まれないだろうか、と心配し相談に至りました。

相談者は、「この子を地域ぐるみで見守り、支えたい」という思いがありました。既に学校や児童館、こども相談センター、民生委員等にも相談していたことから、この情報をもとに関係機関と情報共有し、学校内や近所とのトラブルがあることや、朝食を摂らずに登校していることなど、家庭環境にも課題があることがわかりました。検討の結果、長期休みとなる夏休み中の安否確認を行えると良いのではないかと、ということになり、C SWとして地区内に無かった「こどもの居場所」づくりができないか、まちづくり協議会の福祉部会に働きかけました。

その結果、自宅を会場として提供を申し出た住民や居場所運営に係る協力者（民生委員、地域福祉サポーター、サロンボランティア、生活支援コーディネーター等）とともに、一人のこどものニーズから、地域ぐるみで夏休みのこどもの居場所づくりへと発展することができました。



●相談から居場所づくりまでの流れ



(3) 地域支援

事例 コロナ禍でのC SWの取り組み

○笑顔でごはんフードパントリー事業の試行

新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言の中、学校は休校となり、こどもの居場所となっていた「こども食堂」も集まることができず、こども達の生活の様子が見えなくなっていました。

「こども食堂」に来ていたこども達は、家庭に様々な背景があり「つながりを絶やしてはいけない」こども達であり、どうしたらつながり続けられるのかC SWとして頭を悩ませました。

ちゃんと食事が摂れているのか、と心配する「こども食堂」の運営スタッフが、こども達のためにテイクアウト用のおにぎりをつくる姿を見て、食品やお弁当の配布なら「集まらなくても、こども達とつながれる」と考え、「笑顔でごはんフードパントリー事業」をスタートすることにしました。

市内4カ所の「こども食堂」と連携し5月より試行が始まり、「こども食堂」の運営スタッフにとっては、これが活動再開のきっかけとなりました。9月からは正式に事業がスタートし、市内7カ所の「こども食堂」を通じて、お弁当464食・食料品671食を配布し、こども達とつながりを保ちながら、こども達の生活の様子を把握したり、継続した困りごとの聞き取りができるようになりました。

また、地域福祉サポーターや民生委員等、多くの方々から食料品の提供があり、側面を支えてもらっています。



○手紙の配布

新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言の発令に伴い、CSWとしても、これまでのような地域の中での活動ができなくなり、「手紙」というカタチで地域とのつながりを切らさない取り組みを行いました。



○ボランティアセンター・生活支援コーディネーターとの連携

新型コロナウイルス感染症の拡大により、市場でマスクの入手が困難になったことから、ボランティアセンターと協働し、ボランティアによる手作りマスクを募集するとともに、必要な方へ提供を行いました。

地域では多くの活動が休止・縮小する中、どのように活動を再開させれば良いか、不安を感じている団体が多く、ボランティアセンター・生活支援コーディネーターと協働し、活動再開の一助となるよう「新しい生活様Vol.1~3」を発行するとともに、多くの市民に対しタイムリーな情報を発信できるよう、新たに無料動画配信サイト「YouTube」の活用を行いました。

★所沢社協ボランティアセンターチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCGobqf1YOYMy_wkiYYnUXxA/featured



(3) 地域アセスメントシートの更新

地域アセスメントシートは、地区の基本情報や地域特性（歴史、文化、自然環境等）、活動に取り組む中で地域が直面する課題、社会資源（地域住民・組織・団体の活動内容や状況など）や地域におけるニーズ等を各地区のCSWが整理したもので、それらを踏まえつつ、CSWが地域における取り組みの中で見えてきた課題を抽出し、CSWとして今後取り組んでいきたいことをまとめました。

地域を客観的に捉え、分析し、「見える化」することは、誰もが安心して暮らせるまちづくりを住民、関係機関・団体の皆様とともに検討する上で欠かせない取り組みであり、今後も継続してアセスメントシートを見直していきます。

「アセスメントシートの項目」

①基本情報（人口・高齢化率・自治会）、②どのような地域特性（歴史、文化、自然環境、産業等）か、③どのようなニーズがあるか、④どのような福祉活動（フォーマル）があるか、⑤どのような福祉活動（インフォーマル）があるか、⑥地域に「あったらいいな」と思うもの、⑦「あったらいいな」の実現のために、活用できる資源（ヒト・モノ・カネ・情報）、⑧現在取り組んでいること、見えてきた課題、⑨CSWがこれから取り組みたいこと

※次ページ以降のアセスメントシートは紙面の関係上、一部を抜粋しています。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
地区全体（世帯数）	33,010人（17,296世帯）
年少人口0～14歳	3,637人（11.0%）
生産年齢人口15～64歳	22,300人（67.6%）
前期高齢者65～74歳	3,644人（11.0%）
後期高齢者75歳～	3,429人（10.4%）
【現状】	
・社会的に孤立している若い世代の相談も多く、経済的困窮、疾患や人間関係や生活環境面での課題等複合的な課題を抱えていることが多い。	
・コロナ禍での外出自粛の影響等により、問題が重症化してから相談機関につながるが多くなっている。	
・地域で活動する団体は多くあることから担い手、特にリーダーを担う人材が不足している。	
・マンションやアパートが他地区より比較的多く、住民同士のつながりがつくりづらい。	
・経済的困窮等、外国籍市民の相談が増えている。	
・もともとはサロン活動、こども食堂等、地域住民による多様な取り組みが展開されていた。	
【必要なニーズ】	
・困った時や相談したい時にすぐに相談につながる事ができている仕組みが必要である。	
・必要な情報を得られる仕組みが必要である。	
・自主防災訓練の見直しや防災の組織を検討したい。	
・若い世代を含め、誰でも気軽に集まれる居場所があるとよい。	

どのようなニーズがあるか

担当地域（地区）の状況

【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
地区全体（世帯数）	33,010人（17,296世帯）
年少人口0～14歳	3,637人（11.0%）
生産年齢人口15～64歳	22,300人（67.6%）
前期高齢者65～74歳	3,644人（11.0%）
後期高齢者75歳～	3,429人（10.4%）
【自治会】 ※加入率は参考値	
自治会数	14
自治会加入率	70.2%

【現状】	
・社会的に孤立している若い世代の相談も多く、経済的困窮、疾患や人間関係や生活環境面での課題等複合的な課題を抱えていることが多い。	
・コロナ禍での外出自粛の影響等により、問題が重症化してから相談機関につながるが多くなっている。	
・地域で活動する団体は多くあることから担い手、特にリーダーを担う人材が不足している。	
・マンションやアパートが他地区より比較的多く、住民同士のつながりがつくりづらい。	
・経済的困窮等、外国籍市民の相談が増えている。	
・もともとはサロン活動、こども食堂等、地域住民による多様な取り組みが展開されていた。	
【必要なニーズ】	
・困った時や相談したい時にすぐに相談につながる事ができている仕組みが必要である。	
・必要な情報を得られる仕組みが必要である。	
・自主防災訓練の見直しや防災の組織を検討したい。	
・若い世代を含め、誰でも気軽に集まれる居場所があるとよい。	

内容	
【取り組んできたこと】	
・こども食堂や、誰でも食堂等の地域の取り組みへの支援 コロナ禍においても取り組みを続けられるよう支援を必要に応じて行った。	
・所沢地区活動拠点 コロナウイルス感染拡大防止の観点から、拠点での活動について地域福祉サポーターと模索しながら、主に緊急事態宣言期間以外は取り組みを進めてきた。緊急事態宣言期間中は、拠点活動を中止しつつも、地域福祉サポーターとの情報共有や、日頃拠点に集う利用者宅への訪問活動を継続した。また、利用者支援においては、地域福祉サポーターと必要に応じて連携しながら対応を進めた。	
【見えてきた課題】	
・拠点での相談会 相談会とはしているが、広報面や立地面から実際は実績が得られていない。実際は、相談につながっていない住民が相当数存在すると考えられ、住民にとって身近で地域に開かれた相談会にしていくための検討が必要である。	
・情報発信 コロナ禍における地区内の様々な取り組みに関する情報発信が必要である。	

現在取り組んでいることと、見えてきた課題

CSW がこれから取り組みたいこと

①相談の場や見守りや支え合いの仕組みづくりの検討

地域ケア会議等で、身近なところで気軽に相談できる場があるという声や、自治会等から見守りや支え合いの仕組みについて検討したいという声がある。地域づくり協議会においても相談会の開催が令和3年度の取り組みの一つとなる予定であり、また、地域包括支援センターや地域の関係機関、団体等との検討が開始される等、皆で考えていこうという機運が高まっている。市民参加を活かしながら企画運営を検討したい。合わせて、所沢地区ならではの見守りや支え合いの仕組みの検討もしていきたい。

②情報発信の充実

現在所沢地区での様々な取り組みが行われていることから、その情報を随時発信できるようにしていきたい。そのための方法を地域福祉サポーターをはじめ、地域の関係団体やボランティアと検討するとともに、情報発信の取り組みを充実させていきたい。また、福祉掲示板のさらなる活用を進めたい。

③地域団体、関係機関等との連携強化

所沢地区には多種多様な団体や関係機関、事業所等がある。上記2点の取り組みを進める上でも、各団体等の強みを把握し、連携強化することが欠かせない。各団体等についての情報把握を行い、コミュニケーションを積極的に図っていくことを含め、地域福祉の推進につながる連携を進めていきたい。また、地域福祉サポーターの取り組みとのさらなる連携も併せて進めていきたい。

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在		
	地区全体（世帯数）	43,684人（20,179世帯）	市全体	27.3%
	年少人口0～14歳	5,530人（12.7%）	松井地区	25.6%
	生産年齢人口15～64歳	26,983人（61.8%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者65～74歳	5,561人（12.7%）	自治会数	46
	後期高齢者75歳～	5,610人（12.8%）	自治会加入率	55.9%
どのようなニーズがあるか	【現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、地区の各行事が中止となり、サロンが開催できずに活動が止まっています。 ・高齢になると坂道が多いので買物（近くで買物のできる店がない）・通院が困難である。 ・児童館等の子どもが遊べる場所、子育ての情報収集・交換ができていないことから、孤立している世帯がいないか心配。情報収集・交換ができていない場があるという。 		
	【必要なニーズ】	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてもつながりやを絶やさない取り組みが必要である。 ・閉じこもりがちで一人暮らしの高齢者や子育て世帯がいるので、気軽に集える場所（サロンなど）があるといい。 		

	内容
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍中、地域で孤立している個人・世帯（7040/8050問題を抱えた世帯等）への訪問・安否確認等を通じて見守りや関係構築に努めた。 ・地域包括支援センターや民生委員・児童委員、病院の相談員等、関係機関と連携し、個別支援を実施した。（松井地区社協） ・コロナの影響により、「松井ちょこつと相談」の開催は1回のみとなり、身近な地域におけるニーズマッチングの機会が減少した。（相談会中止に伴い、チラシにCSWの連絡先を記載して周知） ・予定していた「まつい福祉体験講習会」や「地区防災訓練における体験」についてはいずれも中止となり、福祉体験の機会を提供することができなかった。 ・地区の7サロンに助成金交付。「サロン交流会」において、コロナ禍におけるサロン活動について意見・情報交換を実施した。 <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、これまで以上に他者との関りが減少し、体調が悪化し入院となるケースが見られた。 ・相談会に来所されなくても、地域の課題をキャッチし共有できよう、関係機関との連携が必要である。 ・地区社協として身近な地域における体験の場の提供を推進する方向性が出ているが、いかに若い世代の参加につなげていくかが課題である。 ・コロナ禍におけるつながりやを絶やさない活動について、各サロンが模索しており、活動継続に向けた情報提供や意見交換の機会が減少した。

CSWがこれから取り組みたいこと

①地域住民・関係機関と連携しての個別支援の実施

コロナ禍により、地域で孤立してしまう個人・世帯の増加が予想され、これまで以上に地域住民・関係機関（自治会・町内会、地区社協、民生委員児童委員、サポーター等）との連携を密にすることで、課題を抱えている世帯の情報を収集し、課題解決に向けた働きかけを行うと同時に、地域における支援の輪・見守りの意識向上を図る。

②様々な形態による身近な場所での集いの場（居場所）づくり

高齢者はもちろん、子育て世帯が増加している地域もあることから、多世代型の集いの場が必要。学習支援やダブルケア、閉じこもりの方の支援の場としても活用していきたい。また、活用場所だけでなくリーダーとなれる方の開拓や育成も検討していきたい。

地区社協による助成先サロンについては、サロン同士の情報交換・交流や、地区社協行事への積極的な参加・協力を促し、地域のつながりづくりを進めていく。

③身近な地域におけるふくし学習の場の提供

令和2年度は「まつい福祉体験講習会」や「地区防災訓練」等が中止となり、予定していたふくし学習・体験の場を提供することができなかったが、引き続き様々な角度から、地域住民が身近な場所で気軽に体験・学習をする機会を積極的に設けることにより、地域福祉や防災に関する意識の向上を図る。また、小中学校でのふくし学習（授業）への協力だけでなく、様々な取り組みに参加できるように積極的に働きかけを行っていく。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
地区全体（世帯数）	市全体
18,913人（8,907世帯）	27.3%
年少人口0～14歳	柳瀬地区
2,167人（11.5%）	22.4%
生産年齢人口15～64歳	【自治会】 ※加入率は参考値
12,509人（66.1%）	自治会数
2,385人（12.6%）	20
前期高齢者65～74歳	自治会加入率
後期高齢者75歳～	1,852人（9.8%）
45.3%	
【現状】	
・コロナ禍の影響により、地区の各行事が中止となり、サロンや居場所活動が開催できず に止まっている。	
・既存の活動団体は担い手不足もあり、存続困難な団体がある。一方では、こども食堂等 （コロナ禍のためフードパントリー事業の実施）、地域の居場所として新たに取り組み団体 が出てきている。	
・相談会は定着しているが、まだまだ一般には広く知られていない。	
【必要なニーズ】	
・コロナ禍においてもつなごうを絶やささない取り組みが必要。	
・若い世代を含め、誰でも気軽に集まれる居場所があるとよい。	
・必要な情報を得られる仕組みや、困った時や相談したい時にすぐに相談につながるこ とができる仕組みが必要である。	

内容	
【取り組んできたこと】	<ul style="list-style-type: none"> 地域の居場所（つなごうづくり）等を展開する地域の取り組みへの支援 コロナ禍においても「新しい生活様式」（感染防止対策）を取り入れ、活動が続けられる ような支援を必要に応じて行った。また、新たな居場所等の活動をする団体に対しての 立ち上げ支援を行った。
【見えてきた課題】	<ul style="list-style-type: none"> 相談会の機能充実 相談したい情報が無くつなごうがない住民へのアプローチとして、広報の充実や身近 で地域に開かれた相談会にしていこうための検討や、相談会に来所されなくても、地域の課 題を把握し共有できるよう関係機関との連携が必要である。 地域活動団体の活動継続支援 コロナ禍でもつなごうを絶やささない活動の展開等、各活動団体が模索していることから、 活動継続に向けた情報提供や意見交換の機会が必要。 情報発信 コロナ禍における地区内の様々な取り組みに関する情報発信が必要である。
現在取り組 んでいるこ と、見えて きた課題	

CSWがこれから取り組みたいこと

①こども食堂等の居場所支援

コロナ禍の影響により、飲食や対面式の活動ができないうことで、今まで活動していた団体も休止せざるを得ない状況となっている。活動団体もつなごうを絶やささない活動をどのように展開するか模索しており、コロナ禍でも感染防止対策を取り入れ、活動が続けられるよう必要な支援を継続し行っていく。

また、新たなつなごうづくりの活動として、フードパントリー等の活動を展開している団体やこれから立ち上げを検討している団体に対し、CSWが導入や活動の支援を行い、地域活動団体同士の情報交換・交流・連携を促し、地域のつなごうづくりを進めていく。

②地区にある3校の小中学校でのふくし学習の実施

地区内に小中学校が3校ある福祉に関する授業は、取り組み時間や内容等、学校によってまちまちな状況である。今後はCSWと一緒に取り組み、地域住民や近隣の福祉施設との交流等、自分達の生活と絡めた授業展開を実施したい。また、身近な生活の中での福祉について、地域資源を活用しながら、体験だけで終わらない学びにつなげていきたい。

③なんでも相談会の充実

柳瀬まちづくり協議会地域福祉部会と共催で実施している「柳瀬なんでも相談会」の取り組みは、地域の関係機関、団体等が創意工夫し展開していることから、今後も柳瀬地区ならではの見守りや支え合いの仕組みの検討をしていきたい。併せて令和3年度は、相談会の会場としている柳瀬まちづくりセンターの大規模修繕が予定されており、実施体制の検討も必要である。

また、社会福祉法人の公益的な取り組みである「相談会」の周知や気軽に相談できる場所として、継続して地域に広めていきたい。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
地区全体（世帯数）	22,721人（10,053世帯）
年少人口0～14歳	2,591人（11.4%）
生産年齢人口15～64歳	12,799人（56.3%）
前期高齢者65～74歳	3,395人（14.9%）
後期高齢者75歳～	3,936人（17.3%）
【現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区に比べ三世代で住んでいる世帯が多い。 ・高齢者人口が多い。 ・交通の便が悪く、バスが通っていない、または本数が少ない地域がある。 ・歩いていける距離にスーパーマーケットなどがない。 ・地域との関わりが希薄になってきている。 ・自分にできることはしたいと思っている人は多くいるが、支え合いには結びつきにくい。
【必要なニーズがあるか】	
どのようなニーズがあるか	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や通院等の移動手段。 ・生活困窮世帯や40代～50代の社会的孤立状態にある人の居場所。

CSWがこれから取り組みたいこと

①富岡地区住民懇談会（小地域版）の実施

例年、富岡地区全体で年1回の住民懇談会が行われているが、地区が広範囲になるため地域ごとに課題にばらつきがある。そのため、小地域ごとに分けることで住民にとっても身近な地域でのニーズ発見を進めたい。現状としては、3地区または4地区（小学校区程度）に分けた形での開催を検討している。なお、富岡地区は自治会単位での活動が盛んであるため、自治会にも協力をお願いをしていく。より身近な地域でのニーズ発見を住民自身が行うことで、地域課題の発見や地域活動への興味・参加意欲を高めていく。

②見守りの体制づくりと困りごとの解決に向けた仕組みづくり

2020年度に開催予定であった、富岡福祉プロジェクトとの共催による「迷い人声掛け訓練（仮称）」を行い、日ごろの見守り体制づくりに取り組んでいく。2019年度に富岡福祉プロジェクトと共催で行った認知症サポーター養成講座を踏まえ、住民同士による見守りの行い方や声掛けの仕方を学ぶ機会を作っていく。

また長期的な目標としては、見守りの体制づくりやCSWに寄せられる個別相談を通して、富岡福祉プロジェクトや自治会、ボランティア団体等との連携を行いながら、住民相互による課題解決の仕組みづくりに取り組んでいく。

地域や自治会のつながりが強い地域だが、地縁の希薄化は進んでおり、SOSを出せず、困りごとを解決できない地域住民がいる。助けあいや見守り体制を地域の仕組みとして取り組めるようにすることで、住民同士が支えあいの関係を持ちながら生活をしていけるよう支援を行う。

令和元年からは、富岡福祉プロジェクトと協働してサロン等への活動助成金を創設した。助成金を活用しながら、地域住民が関係づくりを行える居場所の立ち上げも支援していく。

③相談会の充実

生活の困りごとや不安を相談できる場の拡充に取り組む。富岡まちづくりセンターでの開催のほか、自治会公民館などの活用を検討する。また、地域包括支援センターや民生委員等へも協力の呼びかけを行っていく。

また、富岡地区内は高齢者や障害者などの福祉関連施設も多く、暮らしの相談事業に参加している事業所が6ヶ所ある。福祉関連施設とも協働しながら、生活の困りごとや不安を相談できる場をつくり、地域住民が安心して暮らせるよう働きかけを行っていく。

内容

【取り組んできたこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・談話タイム（相談会）の開催（H30年10月～）、富岡何でも相談会（R2年9月～）毎月第1・3木曜日 午前10時～正午 富岡まちづくりセンターロビー ・サロンの形で地域住民と顔の見える関係作りを行いながら、個別ケースや地域ニーズの発見、地域資源の発掘・開発を行うことを目的として開催している。地域住民が居場所として利用しつつ、必要に応じて生活の不安や困りごとを地域の住民と共有する場となっている。 ・居場所等の立ち上げ・運営支援 ・小地域での居場所づくりの相談及び立ち上げ・運営支援を行っている。富岡福祉プロジェクトと協力し、福祉のまちづくり助成金を財源としたサロン等への活動助成金を創設した。
【見えてきた課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・富岡地区は東西に大きく、まちづくりセンターまで来ることができない住民もいる。相談会などの取り組みを複数箇所で行っていく必要がある。 ・認知症などが進行してくると、地域のサロン・居場所等で地域住民だけでは対応しきれないとの声も上がってきている。 ・富岡地区内でも、地域によって特徴や生活圏、課題が異なる。
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
地区全体（世帯数）	市全体
年少人口0～14歳	新所沢地区
生産年齢人口15～64歳	【自治会】 ※加入率は参考値
前期高齢者65～74歳	自治会数
後期高齢者75歳～	自治会加入率
	17
	58.8%
どのようなニーズがあるか	【現状】
	<ul style="list-style-type: none"> ・西武線の始発駅の一つでもあり、都内通勤者にとつて交通の便が良く利便性が高い。 ・集合住宅も多く、単身高齢者や支援が必要な高齢者も多く、自宅に閉じこもりがちになり、認知症の発見が遅くなったり、孤独死が問題になったりしている。 ・向陽町や青葉台エリアには戸建て住宅が密集しているが、空き家や住宅の維持管理が困難になったと思われる住宅もいくつか見受けられる。 ・ちょっとした困りごととのニーズは高まってきているが、担い手不足やコーデイネーター機能が無く、お助け隊の実現までには至っていない。 ・不登校の子どもや外国にルーツのある世帯などが気軽に集まれる居場所のニーズが出てきた。

内容	
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	【取り組んできたこと】
	<ul style="list-style-type: none"> ・CSWによる（個別・地域）ニーズのキャッチとして、『ぐりーんぼけっと』における福祉なんでも相談会を実施した（毎月第3金曜日）。 ・「しんとこ福連」や「地域福祉サポーターの定例会」等、地域内の情報共有ができる場や関係機関との情報共有を行った。特に今年度は、ちょっとした困りごとに対応する「支え合いのしくみ」について、話し合いを始めた。 ・「しんとこ広場なないる（毎月第1・3水曜日）」を通じて、高齢者中心の居場所を多世代型の居場所づくりへの切り替えを進めてきた。
	【見えてきた課題】
	<ul style="list-style-type: none"> ・「支え合いのしくみ」については、多くの住民が「あったら良い」と考えるが、その担い手は不足しており、担い手発掘・育成が求められる。 ・講座の参加やサークル活動など、社会参加をしている人は多いが、ボランティアの高齢化が進んでいる。 ・比較的若い世代も多い地区ではあるが、若い世代とCSWがあまりつながっていない。 ・地域住民に対し、CSWの周知が不足している。

CSWがこれから取り組みたいこと	
① ちょっとした困りごとに対応できる活動の立ち上げ	令和2年度から、ちょっとした困りごとに対応できる支え合いのしくみづくりとして、「(仮称)しんとこ支え合いを考える場」の話し合いを重ねてきた。今後は、実際に活動として立ち上げられるよう、新所沢まちづくり協議会等と連携しながら、住民や関係者と一緒に取り組んでいきたい。
② 支え合いの仕組みづくりの「担い手」の発掘・育成	地域の支え合いについて関心を寄せ、その担い手となる人材を様々なネットワークを活かしながら、発掘していくとともに、地域福祉活動に参加するきっかけづくりに取り組んでいきたい。特に若い世代が参加しやすい工夫（情報発信の方法や関心のあるテーマ等）を盛り込んでいけると良い。
③ 高齢者の生きがいの場とこどもの居場所の推進	多世代交流や高齢者の生きがいの場として、地域福祉サポーターを中心とした「しんとこ広場なないる」のこどもの居場所の取り組みが安定するよう、側面的なサポートをする。こどもの参加を定着させるため、こども自身が担い手になったり、意見を取り入れたりした運営を助言していく。また、外国にルーツのある世帯ともつながられるような機会をつくっていく。

担当地域（地区）の状況

	【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
基本情報	地区全体（世帯数）	市全体 27.3%
	年少人口0～14歳	新所沢東地区 23.8%
	生産年齢人口15～64歳	【自治会】※加入率は参考値
	前期高齢者65～74歳	自治会数 8
	後期高齢者75歳～	自治会加入率 62.7%

どのようなニーズがあるか

【現状】

- ・住民の高齢化に伴い、つながらずやみまもりが重要になってきているが、閉じこもりを防止するために、地域活動への参加を促しても、参加しない人も多い。
- ・地区内には体操教室等はいくつかあるが、気軽に誰でも立ち寄れるサロンなどの居場所が少ない。
- ・子どもの学習支援の場は充実しているが、地区内にあった「子ども食堂」がなくなってしまった。
- ・地区内に1カ所あった「車いすステーション」がなくなってしまう。

【必要なニーズ】

- ・学習支援と連携した「子どもの居場所」があると良い。
- ・地域住民同士が交流をするためにも、地域の中によっと立ち寄れて、気軽におしゃべりができるような場所（サロン）。多世代で交流できる場を作りたい。
- ・高齢者にかかわらず、地域で見守り合えるしくみづくりが必要である。
- ・車いすステーションの設置を進めていく。

内容

【取り組んできたこと】

- ・しんとこイーストネットとの連携
高齢者いたわり部会では、住民の集まる場面において、CSWの活動や役割について周知を行った。また、子ども健全育成部会では、地区内の子ども食堂の情報提供や、学習支援との連携を行った。
- ・個別相談の対応として、学習支援の場へつなぐ等の支援を行った。
- ・「子ども食堂」の運営支援。（新たな活動の場所探しや情報提供）

現在取り組んでいること、見えてきた課題

【見えてきた課題】

- ・元気な高齢者は複数の活動に参加しており、地区外にも出掛けている。一方、地域との接点を持たない方、閉じこもり高齢者も多い。声をかけても外に出ない方をどのように地域とのつながりを持たせるかが課題となっている。
- ・サロン等の住民の居場所を希望する声は上がるものの、担い手が見つからず、具体的な活動には至っていない。

CSWがこれから取り組みたいこと

① こどもの居場所づくり

地区内にあった「子ども食堂」がなくなってしまうため、フードパントリーも含めた「こどもの居場所」づくりを推進していきたい。地域福祉サポーターや関心のある方、民生委員・児童委員、自治会・町内会の方々と一緒に、話し合いから始めていきたい。

② 誰でも集える居場所づくりの取組み

■ 居場所づくりのための懇談の場を設定する

ラーク所沢や花園会館等、公的施設や町会館などを活用した多世代交流のイベントや、居場所づくりのための懇談の場を設け、具体的な居場所づくりにつなげるようサポートをしていきたい。

■ 地区内で使える助成金のしくみづくり

しんとこイーストネットと協力をしながら、地区内で使える助成金のしくみを整理して、自発的な取り組みを応援する体制を整えていきたい。

③ 地域団体や関係機関等との連携強化

まずはCSWが地域団体の活動に参加しながら、関係機関等とも定期的に情報共有の機会を設け、地域のニーズ把握や連携できる部分を整理していく。

④ 「車いす車いすステーション」の増設

地区内に1カ所あった「車いす車いすステーション」が無くなってしまったため、商店や公共施設等へアプローチし、新たな車いす車いすステーションを設置していきたい。

担当地域（地区）の状況	
基本情報	【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在
	地区全体（世帯数） 41,133人（19,337世帯）
	年少人口0～14歳 4,503人（10.9%）
	生産年齢人口15～64歳 23,633人（57.5%）
	前期高齢者65～74歳 6,094人（14.8%）
	後期高齢者75歳～ 6,903人（16.8%）
どのようなニーズがあるか	<p>【三ヶ島第一地区（三ヶ島、和ヶ原、林、西狭山ヶ丘）】</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭山ヶ丘駅から遠く、車がないと移動や買い物など交通アクセスが不便である。 ・毎年、大半の自治会・区で会長が入れ替わるため、自治会・区への働きかけが課題である。 ・ボランティア団体が数多くあり、ボランティア活動が活発である。 ・令和3年4月から新たに地区を循環するところワゴンが行政サービスとして導入される。 <p>【必要なニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内で生活に悩みを抱える人が何でも話せる集いの場の提供が必要である。 ・西崎玉フードパントリーの移転に伴い、新たなフード提供拠点の創出が必要である。 <p>【三ヶ島第二地区（東狭山ヶ丘、狭山ヶ丘、若狭）】</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭山ヶ丘駅周辺は転入者が多く、隣近所との関係も希薄で、自治会加入率も低い。 ・地域で孤立している高齢者や障がい者、子育て世代への支援が課題である。 <p>【必要なニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりや顔が見える関係を築ける居場所や活動場所の確保が必要である。
	内容
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空ちゃん和ヶ原 どもも食堂 コロナ禍で、通常の開催が困難なため、スタッフ間で議論を重ね、意見交換を行ってきた。 ・地域福祉部会 コロナ禍ではあったが街頭募金運動等を行い、地域のささえあい活動について検討した。 ・よつてくらっしゅ相談会（毎月第4水曜日） 狭山ヶ丘コミュニティセンターを利用し、出張相談を行っている。入り口付近ロビーに相談窓口を開設することで、施設利用者から相談につながることも多い。相談件数も一定数あることから周辺地域から認知されていることが分かる。 <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔でごはんフードパントリーに協力できる人材を発掘する必要がある。 ・生活に悩みや不安を抱えている人が、地域の中で相談を受けるささえあいのしくみ作りを推進することが必要である。

CSW がこれから取り組みたいこと

①新たな地域福祉部会の始動

今年度の話し合いのなかで、第1地域と第2地域で課題の程度が異なることから、これまでの部会の形は残し、新たに課題検討を行う実行グループをそれぞれの地域ごとに立ち上げた。
来年度はそれぞれの地域ごとに課題検討ができるようになり、少人数で活発な意見交換ができるよう支援していく。

②悩み事や困い事を地域で共有できる場づくり

地域で生活に不安や悩みを抱える方から、相談を受けることが少なくない現状を踏まえ、地域の中で不安や悩みを共有できる場（カフェ）づくりをおこなう。
これにより、地域で孤立している世帯が悩みを一人で抱え込まないよう地域とともに支援する。

③笑顔でごはんフードパントリーの協力団体の発掘

昨年からは始まっている「笑顔でごはんフードパントリー」の協力団体が地区内にないため、実施可能な協力団体の発掘をめざす。「空ちゃん和ヶ原どもも食堂」は13区自治会館を拠点としてどもも食堂をしていたが、会館が密になり使用できないため活動を休止中である。また、パントリーを希望するような世帯の情報が学校等から入ってこないため、実施に至っていない。実施に至るような糸口がないか関係者と相談していく。

担当地域（地区）の状況	
基本情報	【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在
	地区全体（世帯数） 49,690人（22,928世帯）
	年少人口0～14歳 6,191人（12.5%）
	生産年齢人口15～64歳 30,478人（61.3%）
	前期高齢者65～74歳 6,621人（13.3%）
	後期高齢者75歳～ 6,400人（12.9%）
どのようなニーズがあるか	【現状】
	<ul style="list-style-type: none"> （小手指第1地区） <ul style="list-style-type: none"> ・地区面積が広く、地域の特性を考慮しながら小地域単位で支え合いを検討する必要がある。 （小手指第2地区） <ul style="list-style-type: none"> ・駅前の立地とマンションが多く活動場所が少ない中、コロナ禍のため、これまで地域活動に活用されていた集会所が使用できず活動が休止するケースもあった。

内容	
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> 【取り組みでできたこと】 ・小手指地区相談会『談話室こてまる』
	<p>今年度新型コロナウイルス感染症拡大の影響で8月～12月の5回開催となった（令和3年2月現在）。小手指第1地区の民生委員・児童委員の方と個別ケース・地域活動を情報共有する機会になっているが、住民の方が実際に相談に来ることは少ない。</p> <p>『椿の茶の間』の活動支援</p> <p>小手指南地区の居場所『椿の茶の間』では4月頃から夏休み期間を活用して地域の子どもたちと交流できる企画について検討を始めたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催には至らなかった。</p> <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で身近に相談できる場所の周知 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急小口資金・総合支援資金特別貸付相談・フードドライブなどの問い合わせは小手指地区からも多く寄せられた。また、CSWが住民をはじめ民生委員・児童委員等から地域の相談を受けることが多いが、身近に相談できる場所が少ない。 ・小手指南地区椿峰エリアの高齢化 <p>現在『椿の茶の間』を実施している小手指南地区の中でも特に椿峰エリアは高齢化が30%以上と小手指地区の中でも進んでおり、地域での支え合いの場の必要性を住民の方も感じている。</p>

CSWがこれから取り組みたいこと

①地域での相談会の周知・活用の推進

現状開催している『談話室こてまる』には住民の方から直接の相談はないが、社協への相談などを踏まえ、小手指地区でもどこでも話せる場所として民生委員へさらなる周知を行い、必要に応じて案内をしていただく。また、相談会を開催しているまちづくりセンターが小手指第1地区にあり、小手指第2地区の住民が相談するには距離があることから、小手指第2地区の住民の方に向けても相談会を実施できるように小手指公民館分館の活用をまちづくりセンターに相談・検討する。

相談会の内容困った時のものにせず、地域の中で何かしてみたいといった声が拾える場所にしていき、地域活動の参加・ボランティア相談が気軽にできる場所にする。

②椿峰エリアの居場所の充実・多世代交流の場づくり

現在活動している『椿の茶の間』については新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら現在の体操から地域の方が世代を問わず交流できる場として活動拡大を検討する。

一方で、高齢化率の高い小手指南地区・椿峰エリアについて小手指第一地域包括支援センターと連携をし、住民との意見交換をしながら支え合い活動を推進していく。

③地域福祉活動の担い手の発掘・育成

担い手の発掘についてはこれまで小手指まちづくり協議会地域福祉部会と共催で実施する住民懇談会で声を拾ってきたが、今年度は新型コロナウイルスの感染の影響で開催を中止した。また、支え合いの活動を行う際に地域福祉活動を行う「担い手」不足が課題として挙げられる。「担い手」については、地域の中で支え合い活動の重要性・楽しみを知ることでできるようまちづくり協議会や地域包括支援センターと連携しながら研修や講演などを企画・実施していく。

また、地域活動に興味をもった人が活動に参加することで、自分の生活もプラスになるようにコーディネートを行うことで地域活動に興味を持つ方を地域に増やしたい。

担当地域（地区）の状況		
基本情報	【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
	地区全体（世帯数）	市全体
	年少人口0～14歳	山口地区
	生産年齢人口15～64歳	【自治会】 ※加入率は参考値
	前期高齢者65～74歳	自治会数
	後期高齢者75歳～	自治会加入率
	【現状】	
どのようなニーズがあるか	<p>・「まかばか山口」が子ども食堂に代わる取り組みとしてフードパントリーを実施。地域からのニーズも増加している。</p> <p>・椿峰ニュータウンなど丘陵地帯のため坂道が多く外出の支援が必要になる</p> <p>・買物定期便といった住民主体のボランティア活動が10年以上続いているものの担い手不足で継続が難しくなっている。</p> <p>・相談会を通じて、民生委員からつながる相談が増加している。</p> <p>【必要なニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症になっても暮らしやすい地域づくりが必要である。 ・子育て世代の人達が集まれる場所が欲しい。 ・坂道に負けない体作りと外出できる場所が欲しい。 ・カフェなど交流の場が欲しい。 	

内容	
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さわやか談話室 山口まちづくりセンター1階の部屋（収容人数8名程度）第2・4火曜日午前中にCSWが常駐する。地域福祉サポーター・民生委員・ボランティアを希望する人など参加しており、身近な相談場所の他、人と人がつながる拠点になっている。 ・地域福祉研修会 山口まちづくり協議会の福祉部会（≒地区社協）において事務局と相談し、研修会と住民懇談会の打合せを行なっている。その年度に実施内容を提案する。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため福祉部会の開催が一部中止、住民懇談会の中止となったが、研修会は感染防止対策を講じて「防災」をテーマに地域づくりを考える講演会を行った。 <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が安心して暮らせるまちづくり 若い子育て世代が転入等により、情報が少ない子育て支援が必要な方々への情報提供や、地域の中で子育て支援ができるような取り組み。 ・研修会・住民懇談会 地区委員という自治会の役員を各自治会単位で決めているが役員になっても何をやるのかを理解していない人がいる。いつも同じようなメンバーの参加傾向がある。

CSWがこれから取り組みたいこと

① 交流の場（椿峰のみんなのお庭）

椿峰の緑道を歩いてまちセンターから5分程度のところ（59街区）にコミュニティガーデン（いつでも誰でもお庭に関わる事ができる憩いの場）ができた。毎月第2土曜日の午前中が活動予定日になっている。申込みなど不要で活動日以外でも立ち寄れる場所となっている。

この場所についてCSWとしては外出の機会になる場所として周知していきたい。さらにその場所がどこから高齢者など交流ができる場所になるよう提案していきたい。若い人達にも魅力があるものとなるよう、例えばキッチンカーや移動販売車等の導入や情報提供などの支援をしていきたい。また、高齢者にとっては外出の機会を作り認知症予防、介護予防といった点からすすめていく必要がある。

② 子育て世代が安心して暮らせるまちづくり

地域住民・主任児童委員・保健センター・地域包括支援センターらと合同で子育て世代が暮らしやすいまちづくりを目指す話し合いを実施する。他の行政区と比較して低額で住める物件が多く、若い子育て世代が転入してくるケースが少なくないため、地区内で利用できる公共施設やサービスの他、地域で行っている福祉活動の状況を発信し利用してもらえらるような成果物の作成を目指す。

③ オンラインでつながる

コロナ禍によって、計画していた講演会や会議・集会を開催することができなくなったことを受けて、今後はオンラインの有効活用をすすめる。まちづくりセンター・地域包括支援センターと連携しながらZoom等のオンラインサービスを活用して話し合いなどができるよう地域住民へ働きかける。まちづくりセンターにはWi-Fiが通っているため、使い方の分からない人に対してはその場で伝えながらオンラインに馴染んでももらおうと、ICTに不得手な高齢者も取り残さないようにする。

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】 令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在		
	地区全体（世帯数）	37,267人（18,150世帯）	市全体	27.3%
	年少人口0～14歳	4,195人（11.3%）	吾妻地区	25.6%
	生産年齢人口15～64歳	23,550人（63.2%）	【自治会】 ※加入率は参考値	
	前期高齢者65～74歳	4,781人（12.8%）	自治会数	11
	後期高齢者75歳～	4,741人（12.7%）	自治会加入率	62.4%
どのようなニーズがあるか	【現状】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・地区面積が広く、全体で一つのことに取り組むのは難しい。 ・まちづくりセンターへアクセスの悪い地域は子育て支援などイベントに参加しにくい住民も多く、地域で集まることはできない場所も少ない。 			
	【必要なニーズ】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・吾妻まちセンが遠い住民にとっては近くで交流できる場所が欲しい。 			

内容
<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北秋津地区母子の居場所作り ・北秋津地区は吾妻まちづくりセンターからも距離が遠く、子育て支援行事の参加が難しい一方、高層マンションが次々にできてきていることから子育て支援が必要な世代が多く住んでいる。その状況を踏まえ保健センター・吾妻地域包括支援センター・民生委員・主任児童委員などで話し合いを行い、北秋津地区の母子居場所作りを進めた。 ・地域活動を行う住民を絡めたふくし学習 ・北秋津小学校で地域福祉活動者（民生委員・スクールガード・こども食堂）にふくし学習に参加していただき、子どもたちに地域の支え合いについて学ぶ機会を設けた。 <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の『担い手』不足 ・母子の居場所作りにあたって地域住民へ活動の提案を行ったが、活動協力・参加はしたいが代表等の役割を持つことへの抵抗が多く、なかなか担い手が見つけられない。 ・こどもたちのふくしへのイメージに『身近な支え合い』といった考えはまだまだ浸透していない状況である。
現在取り組んでいることと、見えてきた課題

CSW がこれから取り組みたいこと
<p>①子育て支援を通じた多世代交流の場づくり</p> <p>北秋津地区母子の居場所作りについては令和3年5月の初回開催を目指して開催場所・助成金などの準備を進めている。新型コロナウイルス感染症拡大の状況により今後の変更も考えられるが、地域に住む母子を支える手を地域の中から発掘し、最終的に世代交流・支え合いができるよう関係機関とも調整を進め居場所の活動を推進する。</p>
<p>②地域福祉活動の担い手の発掘・育成</p> <p>吾妻地区のこども食堂は現在北秋津地区にある『とんぼハウス』の一カ所のみである。社協だより『ちゃお』の反響などから、地域の子どもを支援したい声が多いが、実際に身近な場所に子ども支援を実施することができていないのが現状となっている。こども食堂に限らず、地域福祉活動の担い手を地域から発掘し活躍してもらうため、講習・話し合いなどを生かす活動などと絡める意味も含め地域包括支援センター等と連携してすすめる。</p>
<p>③地域住民の力を生かしたふくし学習の取り組み</p> <p>実際にふくし学習として訪問した小学校が2校・新型コロナウイルスの影響で訪問はできなかつたものの貸出備品等で関わった小学校が1校と地域の中でふくし学習を積極的に取り入れた地区となっている。</p> <p>その中でふくしが自分たちの生活の中で身近なものになるよう、北秋津小学校で実施した「地域住民による活動紹介などを授業に取り入れること」を他の学校にも提案していく。</p>

担当地域（地区）の状況		
【人口（割合パーセント）】	令和3年3月末現在	【高齢化率】 令和3年3月末現在
地区全体（世帯数）	23,437人（12,029世帯）	市全体
年少人口0～14歳	2,443人（10.4%）	並木地区
生産年齢人口15～64歳	12,802人（54.6%）	【自治会】 ※加入率は参考値
前期高齢者65～74歳	3,673人（15.7%）	自治会数
後期高齢者75歳～	4,519人（19.3%）	自治会加入率
	【現状】	
どのようなニーズがあるか	<ul style="list-style-type: none"> 一人親家庭で親の帰りが遅い家庭が多い。 高齢独居で日々孤食であるため、食事に無頓着になりがちの方が多い。 因窮・高齢・多国籍・母子など、生活上の課題が多い世帯が多いため、地域での支え合いに目を向けることが難しく、ボランティア活動者が不足している。 30～50代で働くことができないう人や引きこもりの人は地域で孤立しがちである。 体県教室が多く活気のある方が参加できる場所はあるが、虚弱の方、ゆっくり過ぎた方は参加しづらい。 <p>【必要なニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日通えることも食堂や、多世代で食事ができる場所が必要である。 30～50代が参加しやすい居場所を作りたい。 ゆっくりおしゃべりができ、自分のペースで過ごせるサロンが必要である。 	

内容	
【取り組んできたこと】	<ul style="list-style-type: none"> ほかほか広場並木8丁目（毎月第2・4水曜日 16：30～20：00 サロン幸福亭ぐるり）：参加者の多くは8丁目の県営団地に住む子どもたちで、ひとり親世帯が多い。調理ボランティアや学生ボランティア、新所沢ロータリークラブなど多くの方が関わり運営している。 ほかほかスカイ（毎月第2・4水曜日 10：30～14：30 スカイマンションA棟 103）地域住民からの情報があり、学校に行けない不登校のこどもの屋間の居場所づくりとしてスタートしたが、現在は「誰でも参加できる居場所」として開催している。 CSWによる相談会：毎週月曜日 13：30～15：30 サロン幸福亭ぐるり 毎週水曜日 13：30～15：30 スカイマンションA棟 103
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	<p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ほかほか広場並木8丁目：楽しみでの参加者が増え、会場の大ききから本当に子ども食堂が必要な方が参加できずに待機になってしまっている。 CSWによる相談会：決まった方しか来ないため、ニーズキャッチに限界がある。こぶし町や並木2・3丁目でのニーズを拾えない。困っている方だけでなく、心配してくれている周囲の人にも来てほしい。 見守り：自治会等や民生委員、関係機関でも把握していない方の孤立死が発生している。

CSW がこれから取り組みたいこと

①並木8丁目での住民懇談会の開催

（並木8丁目子ども懇談会）

ほかほか広場に参加しているこどもたちが主体となり、こども食堂に来るようになる前、こども食堂に来るようになった後の自分の生活の変化を話してもらい、こども食堂が毎日開催されるとどうなるかなど話し合いを行いたい。その後、こどもたちから保護者、地域住民に対して「地域がこうなったらいいな」と語ってもらい、懇談を行うことで多世代が参加できる地域づくりのきっかけにしていきたい。

②こども食堂・多世代型食堂の立ち上げ・運営支援

並木地区では、こども食堂や多世代型食堂が3か所立ち上がっており、利用希望者が増加傾向にある。特に、ほかほか広場並木8丁目については会場の受け入れ人数の関係から、活動の拡大や新たな活動団体の立ち上げを検討する必要がある。

また、並木8丁目周辺では、朝食の提供が必要な世帯がいること、夕飯に限らず朝食も孤食の状態にある世帯もいることから、朝に開設する食堂の立ち上げも検討していく。

③見守り活動の検討

自治会や生活支援の組織がある地域でも孤立死が発生している。生活支援組織の件では、活動者が、本人に家庭の庭の草木が伸び放題であったために声掛けをしたところ拒否をされ、その後関わりを持たずにいたところ、1年後に孤立死が発覚した。声をかけたときに、困りごとの相談先の情報が伝わっていただければ、もしかしたら孤立死を防ぐことができたかもしれないと思われ。また、自治会の件では、自治会で作成している居住者リストから漏れている住民が孤立死した。関係機関が見守りをしていられるのであれば、連携することで防げたと思われる。民生委員や地域包括支援センター、生活支援組織等の関係機関と協力をしながら、一緒に訪問するなど、見守りの体制づくりを検討していく。

④CSWの周知

サロンや健康体操など地域の居場所も多く参加をし、地域の方々との関係形成を図っていくことでCSWの周知につなげていきたい。そして、困りごとを抱えている本人や、周囲の心配してくれている人に対し、相談会などに気軽に立ち寄り寄ってもらえるようにしていきたい。

所沢市社会福祉協議会 地域福祉推進課

住 所：所沢市泉町 1861-1
所沢市こどもと福祉の未来館 3 階

電 話：04-2925-0041

F A X：04-2925-3419

メー ル：0041m@toko-shakyo.or.jp

